|  |
| --- |
| **大阪府の気象概況について**　　　　　　　　　　　　　　　大阪府総務部統計課 情報･分析グループ《 詳細は大阪管区気象台ホームページに掲載しています。<http://www.jma-net.go.jp/osaka/kikou/osaka-kishou.html> 》 |

大阪管区気象台が府内の気象概況を「大阪府の気象」(平成25年(2013年)年報)としてまとめております。その中から、気温と降水量に関する概況について紹介します。

統計トピックス２

**１　気温の推移**

**－冬は寒く、夏は暑く、10月は記録的な高温に－**

25年１～２月は冬型の気圧配置が多かったため気温は平年より低くなりました。夏は、太平洋高気圧とチベット高気圧の勢力が高かったため、６月から８月にかけての平均気温は平年に比べて、0.8～1.2℃高くなっており、８月には、大阪の猛暑日（日最高気温35℃以上の日）の継続日数が17日となり、1920年の統計開始以来最長となりました。秋から冬では10月上旬に高気圧に覆われ、大阪の10月の真夏日(日最高気温30℃以上の日)日数が統計開始以来最多の５日となりました。11月中旬以降は冬型の気圧配置となることが多く、11月と12月の月平均気温は低くなりました。気温についての気象記録は、日最高気温25℃以上の日数が153日（統計開始以来４位）、日最高気温30℃以上が88日（同２位）、日最高気温35℃以上が23日（同５位）となっています。

また、６月から８月にかけての熱中症による救急搬送者の数が増加しており、そのうち高齢者の占める割合が37％から48％となっています。

大阪の気温(平成25年1月～平成26年3月)

平成25年6月～8月の月別熱中症傷病者搬送状況（大阪）

消防庁【熱中症傷病者搬送状況】

**２　降水量の推移**

**－梅雨入りは平年より早く、９月と10月は台風の影響を受け大雨に－**

　　近畿地方は５月27日頃（平年:６月７日頃）に梅雨入りし、７月８日頃（平年：７月21日頃）に梅雨明けしました。月別では、２月、６月、８月～10月が平年より降水量が多く、５月及び７月は平年より降水量が少なくなりました。

また、局地的な雷雨となる日も多く、台風および大雨による災害が発生しました。

大阪の降水量(平成24年及び平成25年)

大雨による主な気象災害（平成25年）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 期間 | 府内の現象 | 気象概況 |
| ６月26日 | 大雨 | 西日本に梅雨前線が停滞し、前線上の低気圧が近畿地方を通過したため、大阪府では26 日未明から雨が降り、日中を中心に大雨となり、交通機関に影響がでました。 |
| ８月 ５日～６日 | 大雨強雨 | 暖かく湿った空気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、局地的に雷を伴って非常に激しい雨が降り、床下浸水の被害がありました。 |
| ８月23日 | 強雨雷 | 西日本に停滞する前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となりました。大阪府内では床上・床下浸水と停電の被害がありました。 |
| ８月24日～25日 | 大雨強雨雷 | 西日本に停滞する前線に向かって、暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となりました。大阪府内では、床上浸水(44棟)、床下浸水(631棟)、土砂災害や道路の冠水等の被害があり、交通機関にも大きな影響がありました。 |
| ９月15日～16日 | 大雨強雨強風雷 | 大型で強い台風第18 号(15日21時で中心気圧960hPa、最大風速35 m/s)を取り巻く雨雲や湿った空気が次々と流れ込んだため、大雨となりました。大阪府内では、負傷者2人、住宅の一部損壊(10棟)､床上浸水(10棟)、床下浸水(200棟)の被害がありました。また、はん濫注意水位を超えた河川は、淀川(淀川水系)、石川（大和川水系）でした。全国的にも日本海から北日本にのびる前線の影響や台風周辺から流れ込む湿った空気の影響、台風に伴う雨雲の影響で、四国地方から北海道にかけての広い範囲で大雨の被害があり、竜巻も発生しました。 |